



**稲作  
ポイント**

**斑点米カメムシ類の多発に注意  
葉いもち急増、穂いもち防除も徹底を!**



秋田地区営農センター 主任 佐藤 怜太

**出穂期からのカメムシ防除適期**

斑点米カメムシ類の発生量は、平年よりも多い予報となっております。特に発生量が多い山間部や耕作放棄地と隣接している圃場、また、圃場内にノビエやホタルイの残草がある場合は被害のリスクが高まりますので、雑草の除去、管理の徹底をお願いいたします。

**カメムシ防除適期…出穂期(圃場全体の40~50%出穂)後1週間から10日後を目安に散布**

**カメムシ1回目防除** …スタークル剤

※散布後1週間以内に畦畔の草刈りを実施してください。

**カメムシ2回目防除** …キラップ剤

※1回目を散布してから2週間後が散布の目安となります。

薬剤名(規格)	時期	散布量等(希釈倍率)
スタークル粉DL(3kg)	1回目 (出穂期7~10日後)	3kg/10a
スタークル液剤10(500ml)		100ℓ/10a(1,000倍)
キラップ粉DL(3kg)	2回目 (1回目散布から2週間後)	3kg/10a
キラップFL(500ml)		100ℓ/10a(2,000倍)

**いもち対策**

7月中旬以降の葉いもち病の感染に好適な気象条件により、山間部を中心に多発しています。発生圃場においては稲の生育の早まりと同様に「穂いもち」への移行も早まり多発する傾向にあるため、徹底した防除をお願いいたします。

**●穂いもち防除薬剤**

薬剤名	時期	散布量等(希釈倍率)
ラブサイド粉	穂揃期~傾穂期	3kg/10a
ラブサイドFL		150ℓ/10a(1,000倍)
		800mℓ/10a(8倍) ※無人ヘリ・ドローン対応

**今後の管理**

- カメムシは畦畔や水田内の雑草に寄生し、出穂後に糞を吸引して被害を与えます。特に「あきたこまち」は糞が割れやすい品種のため、**必ず2回の散布をお願いします**。1回目の防除後は、**1週間以内に畦畔の草刈りを行ってください**。
- 出穂後20日間は玄米形成に最も重要な時期です。間断かん水を基本としながら、常に飽水状態の維持を念頭に、収穫時まで根の活力維持に努めましょう。出穂期以降に高温が続く場合は、胴割粒、乳心白粒による品質低下が懸念されます。収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理で品質向上に努めましょう。
- 高温、強風時(フェーン現象)には、稲体の消耗が大きくなるため、事前に湛水し稲体を保護しましょう。
- 完全落水の時期は概ね出穂30日後とします。早期の落水は葉色の低下(枯れ上がり)の早まりや、根の機能減退により登熟が妨げられ、収量や品質に影響を及ぼしますので、気を付けましょう。

**大雨後の対策**

このたびの大雨で、管内においても多くの圃場が浸水や冠水の被害を受けました。水稻の生育に影響が出ることに懸念されるため、適切な事後対策をお願いいたします。

- 浸水・冠水により、病害虫に対する抵抗力が低下しやすくなります。該当圃場では、いもち病などの発生状況をこまめに確認してください。
- 出穂後も圃場には水分が必要となります。畦畔、用水路の崩れや塞き止めがある場合はそのままにせず、湛水状態が保てるよう補修を行ってください。
- 氾濫で土砂やゴミなどが流入した圃場においては、全てを除去しきれずに圃場内に残っている場合があります。刈り取り時にはコンバインの速度を落としたり高刈りするなどし、安全に作業を行うよう注意してください。

生産資材・農産物の盗難などに注意!

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう